

令和2年度 第2回軽米町総合教育会議 議事録

1 日時 令和3年1月26日(火) 午後3時20分から

2 会場 軽米町役場 2階第1会議室

3 出席者

(構成員) 山本賢一 町長
菅波俊美 教育長
関向玲子 教育長職務代理者
兼田寿 教育委員
紫葉守 教育委員
工藤健三 教育委員
(事務局) 大清水一敬 教育委員会事務局総括次長
工藤薫 同 教育総務担当次長
工藤祥子 同 生涯学習担当次長
関向真介 同 指導主事
(関係者) 川村憲弘 軽米小学校校長
及川崇 同 副校長
小田島誠一 小軽米小学校校長
鹿糠博子 同 副校長
八幡美奈子 晴山小学校校長
菅原孝喜 同 副校長
遠藤岳 軽米中学校校長
五十嵐智 同 副校長

4 あいさつ〈町長〉

この総合教育会議は、町長と教育委員会が連携して町の教育行政に取り組むため、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、様々な調整、協議ができるように進めたいと考えている。

今回は、令和2年度軽米町立小中学校の特色ある取組について協議をお願いする。

5 協議事項

令和2年度軽米町立小中学校における特色ある取組について

〔設定時間 各校30分〕

6 協議内容

(1) 軽米小学校の特色ある取組説明〔校長・副校長〕

〈事務局〉 新型コロナウイルス対策を踏まえた教育活動の工夫、学校運営協議会設置に向けた取組、ICTを活用した学力向上の取組について発表があった。

【主な質疑】

〈委員〉 登下校時に児童の様子が明るく感じる。学校生活での指導はどうか。
→学校 日々、あいさつ運動を実施し、また感染予防に留意しながら、児童とのふれあいを大切に毎日が楽しく充実した一日となるよう、全職員で心掛けている。

〈委員〉 コミュニティ・スクールへの取組状況はどうか。
→学校 学校運営協議会設置に向けた準備委員会を開催し、4月からのスタートに向けて保護者や関係者の理解を頂きながら着実に進めている。

〈町長〉 ICTを活用した教育について、学校公開の予定と聞いているが、どんな様子か。
→学校 タブレット等を有効活用した授業実践を中心に進めているが、新年度は、更に機器等の整備が進むことから、一步踏み込んだ実践を目指していきたい。

(2) 小軽米小学校の特色ある取組説明〔校長・副校長〕

〈事務局〉 アルミ缶リサイクル活動、消防クラブ活動、郷土伝統芸能の取組などについて発表があった。

【主な質疑】

〈町長〉 統合してからも地域と学校が連携を取って継続した事業が展開されていると認識している。農業の学習についての取組はどうか。
→学校 地域の方々の協力をいただきながら、稲作や炭焼きなどの体験学習を進めている。また、町内の植物工場の見学なども行い、地域や町の産業への理解を深めることに力を入れている。

〈委員〉 学習支援である「はなまるパートナー」の取組状況はどうか。
→学校 低学年の保護者を中心に、放課後、児童の学習の支援を行うことで、学習内容の定着と学習意欲の向上につながっており継続したい。

〈町長〉 空き缶を集め施設に継続して車いすを贈ることは大変意義のある活動である。今後、脱CO₂や食品ロスへの学習を取り入れることも考えてほしい。

(3) 晴山小学校の特色ある取組説明〔校長・副校長〕

〈事務局〉 学力向上、健康・体力、新聞教育、地域学習の取組について発表が

あった。

【主な質疑】

〈町長〉 新聞教育や地域教育を通じ、発展的にイメージキャラクター「サルナッシー」を考えるなど、着実に子どもたちの力を育てていると感じる。

→学校 新聞教育により、児童は新聞を読み多くの出来事にふれ感想を持つ楽しさを知り、家庭では子どもの成長を実感する機会をつくり出している。現在職員の熱意と家庭の協力のもとに、子どもたちの確かな歩みを感じており、その継続的な取組が児童の地域への関心の高まりにつながったものと考えている。

〈町長〉 晴山地区は古い歴史もつ地域であることから、そのことも伝えてもらいたい。

→学校 地域の協力の中で、運動会で山内神楽に取り組むなど、地域の歴史を体感できる活動を取り入れている。

〈委員〉 地域ボランティアや外部講師を活用するための環境整備はどうか。

→学校 地域の方々の日常的な支援に感謝している。今後、学校運営協議会の設置と共に、外部講師との連携や活動の内容についても更に検討して参りたい。

(4) 軽米中学校の特色ある取組説明〔校長・副校長〕

〈事務局〉 中高連携、地域芸能、感染予防のもとでの諸行事への取組などについて発表があった。

【主な質疑】

〈町長〉 I C Tを活用した授業への取組はどうか。

→学校 現在は十分とは言えないが、G I G Aスクール構想による端末やW i F i 環境の整備が進められており、今後各教科での活用を更に進める予定である。

〈委員〉 コロナ禍において、ゲーム依存や不登校の増加など不安に思うことはないか。

→学校 従来以上に生徒理解に努め、情報共有を大切にしながら、生活のリズムを損なわないよう、家庭と協力し指導を進めていきたい。

〈委員〉 郷土芸能の伝承活動やH Pでの情報発信に力を入れているように感じる。

→学校 今後も郷土芸能の伝承活動は全校で取り組む予定である。また、生

徒の様子をより多く地域の方々にも伝えるためにも、校報の発行やH
Pの活用に力を入れて参りたい。

〈町長〉 脱炭素社会の実現など、今後SDGsを意識した取組を期待する。

○閉 会